

話す、書く、文法指導を 自在につなぐ

Creative Writing (1)

加藤京子 Kato Kyoko (兵庫県三木市立緑が丘中学校)



① Creative Writing って何？

Creative Writing (以下 CW と表記) とは、与えられたテーマで、想像力を働かせ、絵や写真なども利用し、「自由に」書く writing のことです。一言で言えば、英語で行う創作です。単に writing と呼んでもよいのですが、絵と合えば数語でも成立するのが CW なので、私は区別してこう呼んでいます。

「自由に」とカッコ書きにしたのは、ある文法事項や文章展開のパターンを使うように条件をつけて、その範囲内で自由に書かせるからです。ですから、深い文法理解と習熟をねらって書かせることもできますし、話す活動を行ったあとに、それをもとに書かせたり、書いたものをもとに話す活動や読む活動に展開したりすることもできます。聞く活動のあとで、そのリスニング原稿をモデルとして与えて書く活動を行うこともできます。

CW は、コツをつかめば、書くことの指導が始められる中学1年生から大人まで、どの段階の英語学習者も楽しくコミュニケーション能力を伸ばせる指導方法です。新任の先生にも、「指導がマンネリ化してしまって」と悩んでいらっしゃるベテランの先生にも是非試していただきたいと思い、今回から授業レポートを書かせていただきます。

② 3年間続けるとどこまでできる

1年生の指導から順次紹介する方法もありますが、今回は3年生の指導例をご紹介します。それは、3年生で到達させたい目標があつてこそ、入門期からの指導の着眼点が定まるからです。

'Whale' とある作品を見てください(写真A)。これは、3年生の「野生動物の立場から環境問題を考える」プロジェクト学習の一環として、生徒が夏休みに制作したポスター新聞です。四つ切り画用紙



'Whale' のポスター新聞(写真A)

に動物の生態、特徴、人間社会との間でどのような問題が起きているか、日本文化がこの動物についてのどのようなイメージを持っているか、といったことを、写真や図解とともに英語で紹介しています。

取り上げる動物の選定については、特定の動物に偏らないよう、教師が指定した30種類の野生動物から、同じ動物の作品がクラスで2つまでになるようにして選ばせました。

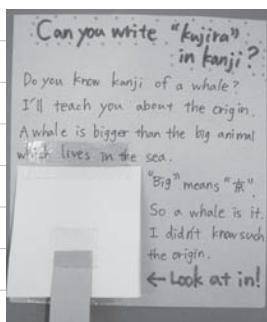
継続して指導すると、3年生の夏休みには教師の手を借りずともこんな作品ができます。

③ 興味をもって読んでもらえるように工夫させる

前述のポスター新聞は展示するものなので、要所では、英語の語句の下にあえて日本語をローマ字で入れさせています。また、ポスター内の4コマのイラスト(写真Aの下段中央)は、捕鯨問題を扱ったコラムの説明イラストですが、このような挿絵や写真、グラフの使用を薦めています。

さらに、CWでは「読み手が興味をもって読んでくれるよう工夫しなさい」ということを入門期から

常に奨励しています。ポスターの Can you write "kujira" in kanji? という記事(写真Aの上段中央)では、四角い紙を引き上げると「鯨」の漢字が見られるようにしてあります(写真B)。



記事の拡大写真(写真B)

文化祭に先立ち、夏休み明けに廊下展示を始めると、下級生までもが集まって作品を見ています。環境教育、理科教育の観点からだけでなく、タイトルのつけ方、紙面構成、それぞれの記事の内容や意見の展開の仕方など、英語教育から見ても非常によい読む材料となっています。同じ動物を取り上げた作品同士を比較して読むこともできます。

英語のまちがいはもちろんありますが、CWではまちがいをゼロにすることよりも、「魅力ある読み物」としてまとめあげる力を育てることを目標にしています。

4. 全員が取り組む

135人いた3年生のうち未提出に終わったのは8名でした。未提出の生徒たちにうまくフォローができなかったことは悔やまれますが、6%ですから少ないと言えます。

全員が書けるように指導する工夫はいろいろありますが、この作品については、以下の工夫を行いました。

- ① 1年生からの継続指導で育った力に見合う課題を設定した。
- ② 教師が作品見本を作り、どういう作品を作ればよいかを示した。
- ③ 大作のように見えるが、それぞれの記事を書いて台紙に貼り付ける、取り組みやすい形式にした。
- ④ 2人で共同制作してもよいことにした。ただし、「友だちに一緒に作ろうと言われても、1人で作りたいときは、はっきり言いなさい。誘うほうも無理強い禁止」という指導も行った。
- ⑤ 色画用紙を学校で準備し、好きな色を選ばせた。

そして何よりも、前提として、生徒と教師の間に「CWはこうあるべきだ」という共通認識をもてるようにしました。

CWでは、入門期から一貫して、それぞれの生徒が表現する気になり、表現したい内容に対して不足している英語力を工夫でカバーし、その工夫を楽しんで書けるように指導します。また、絵やレタリングの美しさを過剰評価せず、発想、英文表現、自己開示性、表現の補助手段をどう工夫しているか、に着目してよい点をほめ、不足する点を指摘しながら指導を積み重ねるのです。

作品の出来ばえはもちろん様々でしたが、どの生徒も自分の作品は誇らしく、取り上げた動物について詳しくなり、特別な愛着を感じてくれています。

5. 書いた作品をベースに話す活動

生徒全員がこのような作品を夏休みに作ると、野生動物と環境問題の関係についての理解や関心が学年全体で共有されます。すると、例えばセヴァン・スズキの「伝説のスピーチ」といった教材も理解しますし、原稿を理解してしまえば、スピーチビデオも興味をもって視聴します。これは中高生に是非見せたいスピーチモデルです。

2学期の半ばには、野生動物の立場から人間に向かってアピールするという、話す活動に取り組みました。夏休みの時点では未習だった関係代名詞や「want人不定詞」といった文法事項を入れ、理解と定着を図っています。表現上必要なので「want人not to不定詞」の形も教えました。

3年生の2学期では、即興性や説得性を指導課題としましたので、次のような型を与え、なりたい動物をその場で選んで話させました。

I am a/an 動物名 which _____

- ① 要求 We want you human beings to _____
理由 _____ 2, 3文
- ② 要求 _____
理由 _____
- ③ 要求 _____
理由 _____
(最後の強調文) _____

授業では、その場で教師が与えた絶滅危惧種について発表させましたが、自分が作成したポスターを黒板に貼って、よく知っている動物について話すという活動もできます。またグループを作り、寸劇の形でその動物が抱える環境問題を人間に訴えるという活動も可能でしょう。

いずれにせよ、全員の生徒が、すでに調べ、工夫し、楽しんでポスター新聞を書き、学習集団が興味・関心を共有しているのですから、話す活動は成功しやすくなります。

6. 書く→話す→書く

書いたものをもとに学級で話す活動に取り組んだあとは、再び書かせます。ただし、話したときよりも長く、辞書も使ってきちんとまとめさせます。



プロジェクト学習の最後の課題(写真C)

この作品は野生動物についてのプロジェクト学習の最後に書かせた課題です(写真C)。文法やつづりなどのまがさも減り、構成もしっかりしています。

「第一、第二、第三」という論理の展開の仕方は、2年生のころから教えますが、何度も使い、また、友人たちの発表や作品に触れているうちに、その便利さや意義に気づくようです。

7. すべての活動をつなぐ Creative Writing

生徒たちは、夏休みにポスター新聞を制作するのに先立ち、教師の作品見本をじっくり読んでいます。セヴァン・スズキのスピーチだけでなく、ALTが話す北米の野生動物についてのスピーチを聞き、そ

の原稿も読みました。学年全員分は無理でも、他の生徒のポスターもたくさん読んでいます。友人たちと意見交換もしたことでしょう。2学期のスピーチ発表やその後のCWでは、3年生で習う文法事項を繰り返し使って理解を深めています。

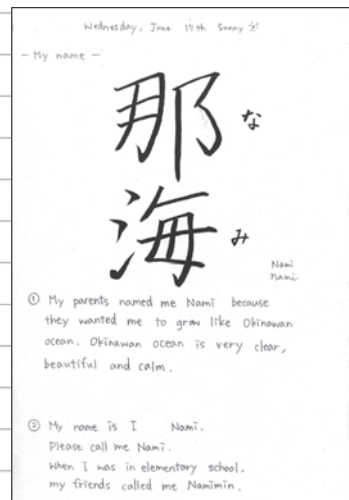
このポスター新聞作りというCWを起点に、生徒たちは「書く」「読む」「話す」「聞く」、文法学習、そして資料を集め、調べ、意見を述べるという総合的な学習活動を行ったのです。

つまり、教師が教えるべき文法事項や教科書の内容に関連させた、そして生徒が「書いてみたい」と思うテーマでCWを仕組みれば、学習は重層化していくわけです。

8. 名前を説明する CW

最後は、自分の名前についてのCWです(写真D)。2題あり、1つ目は (人) named me (名前) because (理由) . で書き始めます。不明のときは自分が望ましい理由を書きます。2つ目の書き出しは My name is (名前) . Please call me (呼び名) . 動詞 name と call の用法の習熟を意図した、文法指導のための課題です。

しかし、この活動は同時に、将来外国人の友人に好印象を与え、すぐに覚えてもらえる名前の紹介の仕方を考える機会となっています。筆ペンで漢字を書き、カナとローマ字で読み方もつけます。次回は、さらにこういった指導例をご紹介していきたいと思えます。



名前のCWの例(写真D)